

## 日本認知言語学会第26回全国大会プログラム 【1日目】

※ 本プログラムは速報版です。一部変更になる可能性もありますので、追って公開される最終版も必ずご確認ください。

8月30日(土) 受付9時30分

ワークショップ	10:00   12:20	引用表現の周辺から見る 言語使用のダイナミズム  堀内ふみ野 (日本女子大学) 佐川寛知 (神戸大学) 細谷諒太 (慶應義塾大学[院]) 泉大輔 (立教大学) 中村文紀 (中央大学)	コーパスに基づく諸言語の述 語所有の研究 —類型論的研究と用法基盤的ア プローチの融合を目指して—  稲生秀俊 (東京外国語大学 [院]) 佐近優太 (神田外語大学) 國末薫 (東京外国語大学[非常 勤]) 山下航平 (東京外国語大学 [院]) 永井慧 (東京外国語大学[院]) 堀江舞柚 (東京外国語大学 [院])	ナル的表現における 「点」と「線」  守屋三千代 (創価大学) 栗林裕 (岡山大学) 岡智之 (東京学芸大学) 宮岸哲也 (安田女子大学)	構文ネットワークの ミッシングリンクを探る  陳奕廷 (東京農工大学) クレメンス・ポッペ (早稲田 大学) 浅尾仁彦 (情報通信研究機 構)  ディスカッサント: 松本曜 (名古屋外国語大学・国立国 語研究所)
---------	---------------------	--	--	---	---

昼食休憩(12:20~13:20)

開会挨拶(13:20~13:30)

<b>特別講演</b> 13:30~15:30  オンライン同時配信	テーマ: Language as Skill  講師: Morten H. Christiansen先生 (Cornell University and Aarhus University)
---	---

(オンライン同時配信)						
第1発表	15:50   16:25	【招聘】 嶋田珠巳 (明海大学)	日本語接頭辞「ポスト」「ネ クスト」に関するフレーム意 味論的考察  久保圭 (早稲田大学)	アイヌ語の人称接辞anの統一 的説明—存在動詞anとの関わり から—  岡智之 (東京学芸大学)	日本語と中国語における「力 学動詞」の提案 —力学的関係と空間的關係の 違いに着目して—  王鈺 (大阪大学[院]・日本学術振興 会特別研究員)	Modal Constructions in Asian Englishes: A Multivariate Approach  Yoshikata Shibuya (Kanazawa University) Kim Ebensgaard Jensen (University of Copenhagen) •  *Presentation in English
第2発表	16:30   17:05	【招聘】 生田美希 (早稲田大学)	フレーム意味論による学際的 研究: 建築家が生み出した新 語「半建築」の意味構造分析  吉田江依子 (名古屋工業大学) 夏目欣昇 (名古屋工業大学)	現代日本語における [X+級] の多義構造 —評価性の表出 に注目して—  大志民彩加 (名古屋葵大学)	日本語の感情形容詞の連用 法と中国語の対応表現に関す る認知・対照言語学的考察  万巨鳳 (東北大学[院]) 上原聡 (東北大学)	"Sensei-ga watashi-ni shikararemashta (the teacher, to me, scolded)": challenges of learning to produce Japanese <i>ni</i> passives and what empirical data can reveal  Akiko Furukawa (SOAS University of London)  *Presentation in English
第3発表	17:10   17:45	【招聘】 横森大輔 (京都大学)	語形成における言語フレーム と認知フレームの接点: 英語身体部位名詞由来 -er名詞 に関する事例研究  中島浩貴 (大阪大学)	〈期待未達成〉を伝える「～ ものの」の逆接性  梶川克哉 (愛知文教大学)	主語の省略に関する日中対照 研究 —事態把握と情報構造の観点 から—  陸小曼 (東北大学[院])	Sound symbolism across dimensions: Shape is prioritized over size  Hinano Iida (Nagoya University[graduate school]) Takanori Nanahara (Nagoya University[graduate school])  *Presentation in English

懇親会(18:20~20:20)

※1日目・2日目ともに書籍展示を行います。

## 日本認知言語学会第26回全国大会プログラム 【2日目】

※ 本プログラムは速報版です。一部変更になる可能性もありますので、追って公開される最終版も必ずご確認ください。

8月31日(日) 受付9時10分(1日目に受付をされていない方のみ)

<b>第1発表</b>	9:30   10:05	英語前置詞inのイメージスキーマの概念化に関する一考察— 一日英母語話者に対する心理実験を通して—  藤原隆史(松本大学) 沼田泰英(北海道大学)	抽象概念における個別化の度合いとメタファー表現の関係— 類別詞と固体/液体メタファーの対応を通じて—  鈴木幸平 (大阪大谷大学)	逸脱表現と見た目の類似: 英語のtoward toを対象に  木村快 (慶應義塾大学[院])	LLM間のコミュニケーションは意味拡張を促進するか: 用法基盤モデルの仮説検証  永井宥之 (奈良先端科学技術大学院大学)	評価性が相反する形容詞が共起する文の評価— 合成性の原理・印象形成に対する実験認知言語学的アプローチ—  阪口慧 (九州工業大学)
<b>第2発表</b>	10:10   10:45	動詞pressとsqueezeの多義性と語彙アスペクト  出水孝典 (神戸学院大学)	メタファー活用の出現傾向と関与するメタファー表現の慣習性— 「年収の壁」に関するネット記事コメントの事例分析—  丁昊天 (名古屋大学[院])	日本語における色彩語使用のボトムアップな記述とその理論的示唆  三田寛真 (東京大学[院])	語順の実現傾向に関する量的分析— 複数の要因の相対的影響力の評価—  高橋武志(京都外国語大学[院], 独立行政法人国際交流基金) 神原一帆(国立研究開発法人情報通信研究機構, 立命館大学) 野澤元(京都外国語大学)	日本語と韓国語における感覚の移動表現— Talmyの移動事象との関連を中心に—  宣・ミンジョン (忠南大学)

10分休憩

<b>第3発表</b>	10:55   11:30	同形異義構文の消失と保持に関する一考察— 英語二重目的語構文を例に—  関太志 (京都大学[院])	親族名称メタファーにおける非対称性— 虚構的用法との関連から—  角出凱紀 (京都大学[院])	百科事典的知識の品詞転換に対する動機づけ— 内の関係の「二字漢語動名詞+の+名詞」を例に—  葉秉杰 (国立政治大学)	動画投稿サイトにおける談話標識の機能— 「という {こと/わけ} で」に着目して—  工藤俊 (駒沢女子大学)	第2言語習得における視覚刺激の処理と言語表現— 視線計測データと言語表現の選択傾向による認知的特徴の分析—  佐古恵里香 (流通科学大学)
<b>第4発表</b>	11:35   12:10	英語結果構文に認められる「間接使役性」  浅井良策 (群馬県立女子大学)	中国語報道における新型コロナウイルス感染症に関して用いられた概念メタファー表現のライフサイクル分析  聶雨晨 (北海道大学[院])	換喩と風格構文を動機づける参照点構造の多層性  富岡侑央 (京都大学[院])	形式名詞「ため(に)」のスキーマ  バリハワダナ・ルチラ(京都大学) 高橋雄一(専修大学) 近藤安月子(東京大学名誉教授)	中国人日本語学習者の作文に見られる構文的特徴とその認知的要因  孫芳 (東北大学[院])

昼食休憩(12:10~13:40 ポスターセッションを含む)

<b>ポスターセッション</b>	12:30   13:30   10件 同時進行	日本語学習者に対する視覚情報提示によるエビデンシャルティの指導事例  齋藤佳奈(兵庫教育大学[院]) 菅井三実(兵庫教育大学)	日常会話における「力抜き疑問文」の機能— コンテキスト化の合図という観点から—  江俊賢(高雄科技大学)	映画における日中吹き替え翻訳の対照分析— 「場」の観点から—  彭越(フリー)	意味属性付き辞書開発に向けた試論— 語のデフォルト解釈はどの程度役立つのか?—  野澤元(京都外国語大学) 神原一帆(情報通信研究機構・立命館大学)	俳句の語順とprominence— 一心的描写の観点から—  向井理恵(金沢学院大学)
		異文化間翻訳からみる映画のディスコースのレトリック的表現の機能  FERREIRA ANDRADE Samara Mabeli(神戸大学[院])	Comparative Analysis of the Modal Verb 'Could' Among Indonesian and Japanese EFL Learners: A Corpus-Based Study  Nida H. Ghaziyah(Kanazawa University)  *Presentation in English	Conceptualising <i>Yō-ni</i> as a Change-of-State Element in Japanese  Martin Teshome(Nippon Bunri University)  *Presentation in English	「見る」ことから考える前置詞の意味— have an eye on Xとhave a look at Xに注目して—  田尾俊輔(大阪大学)	把構文の拡張用法における意味構築— Mental Space Theoryに基づく考察—  屈莉(高岡法科大学)

総会(14:00~14:20)

<b>シンポジウム</b> 14:20   17:00  ※オンライン同時配信	テーマ: 言語と言語表現の類型化をめぐるポリフォニー— 移動/状態変化表現・体言化・引用  企画・司会: 堀江薫先生(愛知大学) 講師: 松本曜先生(名古屋外国語大学・国立国語研究所) 講師: プラシャント・バルデン先生(国立国語研究所) 講師: 遠藤智子先生(東京大学)
--	--

閉会挨拶(17:00~17:05)